

会 議 録

会 議 名	平成22年度第1回小金井市立はけの森美術館運営協議会		
事 務 局	文化推進係 はけの森美術館		
開 催 日 時	平成22年5月26日（水）午後6時10分から午後7時30分		
開 催 場 所	はけの森美術館 2階		
出 席 委 員	鉄矢悦朗会長 宮村令子副会長 千村裕子委員 鈴木茂哉委員		
欠 席 委 員	豊岡弘敏委員 淀井彩子委員		
事 務 局 員	薩摩雅登学芸顧問 大野玲学芸員 神津瑛子学芸員 荒木和学芸員 山田耕太郎係長 吉川まほろ主査 中嶋登再任用職員		
傍 聴 の 可 否	可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会 議 次 第	<p>1 事務連絡</p> <p>(1) 事務局より</p> <p style="padding-left: 20px;">ア 会議録について</p> <p>(2) 学芸員並びに職員紹介について</p> <p>2 挨拶</p> <p style="padding-left: 20px;">鉄矢会長挨拶</p> <p>3 協議事項</p> <p style="padding-left: 20px;">美術館の運営について</p> <p>(1) 運営協議会の年間計画について</p> <p>4 議事内容</p> <p style="padding-left: 20px;">美術館の事業について</p> <p>(1) 平成22年度事業予定について</p> <p>(2) 平成23年度事業予定（案）について</p> <p>(3) その他</p>		

鉄 矢 会 長 議事進行をします、会長をしている鉄矢でございます。では、次第に従いまして、事務局より事務局連絡ということでお願いします。

1 事務連絡

(1) 事務局より

事務局(中嶋) 実は、会議録作成に当たりましては、正確性を期する観点から、ご発言

をされる際には、発言者のお名前をお話ししていただきましてご発言ということでお願いしたいと思います。

また、会議の文末においては、です、ます体ではいかがかと思ひます。である体ではちょっとかたいかと思ひますので、その2点につきまして、委員のほうでご協議していただければと思ひます。よろしくお願ひいたします。

鉄矢会長 ありがとうございます。

議事進行の私も、鉄矢ですと一々言ったほうがよろしいのでしょうか。

事務局(中嶋) はい。

鉄矢会長 今、話しました議事録について、名前を言ってから発言するということに関して、意図もご説明いただきましたけれども、それでよろしいでしょうか。少しずつなれていきましょう。

それからもう1つの発言に関して概要を示していくのと、全体会議の全体の概要を示すものの3種類ということですが、これは以前から、全部は難しいねという話があつて、チェックするほうも、我々もそうだったので、発言の概要を記録するという形でということをおもっておりますので、その提案を皆さんに諮りたいと思ひますが、いかがでしょうか。

(「賛成です」の声あり)

鉄矢会長 では、会議録については、発言の前に名前を言うことを皆さんご了解いただいた。それから、記録については、発言に関しての概要記録で了解いただけたということになります。

(2) 学芸員並びに職員紹介について

鉄矢会長 次、(2)に行きます。学芸員並びに職員について、よろしくお願ひします。

鈴木委員 平成22年度に入りまして、美術館のスタッフに異動がございました。新しくここで、荒木学芸員、そして、事務で、再任用職員で中嶋職員が加わっております。また、コミュニティ文化課のほうも、前任の鈴木雅子係長が定年退職をいたしました関係で、後任に吉川まほろ主査が来ておりますので、各自それぞれ自己紹介をお願ひしたいと思ひます。

では、荒木さんから。

荒木学芸員 5月からお世話になっております荒木です。よろしくお願ひいたします。本来は4月1日からになるはずだったのですが、私のほうの都合で5月からとさせていただきます。

まだ1カ月もたっておりませんので、まだまだ不慣れなところはたくさんありますが、今後少しでも活動の力になればと思っております。よろしくお願ひいたします。

事務局(中嶋) 中嶋登でございます。本年4月1日より再任用職員ということで、はけの森美術館にという拜命を受けました。ひとつよろしくお願ひいたします。

吉川主査 企画政策課から異動してまいりました、吉川まほろと申します。よろしくお願ひいたします。美術館の運営に関しまして、かゆいところに手が

届くフォローをさせていただければと思っておりますので、よろしくお願いたします。

2 挨拶

鉄矢会長挨拶

鉄矢会長 運営協議会は平成22年第1回目で、今後も、大改修なのか、整える必要がある美術館が、部屋ができましたので、そんなことも近いうちに考えなきゃいけない。やることと考えること等はたくさんあるので、これからも力を合わせて、歯にきぬ着せない意見で、いい美術館を目指すようにやっていきたいと思ひます。皆様もぜひ、思ひたことをしっかき発言して、よりよい美術館に向かうベクトルは同じだと思ひますので、よろしくお願いたします。

3 協議事項

美術館の運営について

(1) 運営協議会の年間計画について

鉄矢会長 3、協議事項、美術館の運営について、(1) 運営協議会の年間計画について。こちらは私のほうで説明します。

昨年度、21年度のときに、運営協議会を年間4回、まず5月のこれが年度始めです。その後、予算を決める前の7月、それから、予算が決まってから翌年度の計画をまた考えるときの話も聞きながらということで10月、それから、年度の報告として2月という、5月、7月、10月、2月という4回を昨年度皆さんで決めたと思ひしております。

去年度は、それが実は3回しかできなかった。その話し合いの中で、減らすことも考えると。ただし、まずは決めたことをもう一回取り組んでみようということ年度末にお話ししたと思ひしておりますので、今年も一応4回を目標にしながら、ただ、諸事情で臨機応変するというのりしろを持ちながら、まずは4回ということ計画したいと思ひますけれども、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

鉄矢会長 事務局のほうからご意見ございますか。

事務局(中嶋) 本年度は4回の予算措置がされておりますので。

4 議事内容

美術館の事業について

(1) 平成22年度事業予定について

鉄矢会長 4、議事内容に入ります。美術館の事業について、学芸員から今日配付していただいた資料について説明していただきます。お願いたします。

大野学芸員 学芸員の大野です。私のほうから全体の話としまして、個々の事業については担当の学芸員のほうから簡単にご報告したいと思ひます。

展覧会については、今開催しております「中村研一 自然の歌」、これについては、前回もご報告しました。今現在、4月分の入館者数等についての報告は別の資料に出しておりますので、そちらを参照してください。

先日、5月15、16の土日に、けんぼしゃん誕生日記念、中村研一の誕生日記念ということで無料開放日がありましたけれども、各日150名ぐらい前後の入館者があったということです。

次が、この展覧会が終わりまして、6月から7月前半にかけて閉館いたします。館内整理ですとか展示替え作業をいたします。

7月17日から、次の所蔵作品展Ⅱです。お手元のチラシをご参照ください。こちらは特に、サブタイトルで「～特別展示 新収蔵品『シンガポールへの道』～」と出ていますけれども、これは以前にもお話ししました、新たに寄贈がありました作品です。こちらを特別展示するというのが、今回のこの展覧会の目玉かと思えます。これは秋まで。終わりましたら、また1カ月ほど展示替え等の期間を持ちまして、11月9日から笹岡了一展があります。こちらについては、神津のほうから。

神津学芸員 何度も運営協議会でもお話をさせていただいていますが、日程が決まっていなかったと思いますが、11月9日から1月23日の予定です。この中には、小学校の鑑賞教室等もまた入ってくると思いますので、次回の運営協議会ではチラシ等ができていますと思いますので、またご案内いたします。

大野学芸員 それが終わりましたら、特別展示ということで、開館5周年記念、展覧会名はまだ仮ですけども、「小さな美術館からの声～中村研一と共に・5年の歩み～」ということで、5年間の活動を、特に収蔵品である中村研一の作品を展示することで振り返る展覧会と。特別展としていますが、所蔵品だけではなく、開館初年度にありましたオープニングのときの回顧展の作品を、もう一度可能な限り出品、公表して、展示したいと思っています。そういう特別展が、年度をまたいで3月から5月にする予定です。

以上が、今年度の展覧会の予定です。

ネーミングについて、鉄矢会長のほうからも考えるようにとありましたが、まだ考えていません。教育普及活動、展覧会とは別の特別教育普及活動ですけども、6月と2月の長期閉館期に予定しています。

1つは、6月の落語、こちらはチラシが入っていますけれども、担当の神津のほうから簡単にご説明いたします。

神津学芸員 担当します神津です。こちら黄色いチラシです。「ごくらくらくワークショップ」ということで、落語を学ぶのではなくて遊ぼうということで、古典落語の物語を使って、体を動かしたり、言葉遊びをやったり、ゲームをして落語を知っていくというようなワークショップにしたいと思っています。

教育普及活動のネーミングについては、はけの森クラブのような、わりといろいろなものに使えるようなものを考えようと。でも、はけの森クラブではもう一味だなと思っていろいろ考えています。運営協議会の委員さん方も、何かネーミングのアイデアがありましたらお聞かせください。

6月は「閉館中の美術館で“ことば”と“からだ”を“らくご”で遊ぼう！」という、ちょっと風変わりな形になっていて、2月はまだ未定ですが、何か展示室を使った、広いところでやるような、おもしろいことをや

れたらなと思っています。

大野学芸員 「ごらくらくご」のほうは、参加者のほうが、打ち合わせにありましたように6月2日からになっています。まだなんですけれども、ぜひご案内ください。

それから、今年度の予定としまして、次の四角のところに、館報の作成とありますが、発行は来年度になると思うんですけれども、そのための準備を今年度進めていく予定です。特にこちらのほうを担当する学芸員として、新しく荒木が担当しておりますので、簡単にお問い合わせいたします。

荒木学芸員 現在のところは、館報に必要な仕様ですとか掲載項目ですとか、そういったものの案をまとめ始めているところです。他館の事例も参照しながら、その中で当館の事業を公式記録として残すにふさわしい書式、形式をどのようにするかというのを検討しております。10月の予算請求の際にはある程度の仕様を固めなければいけませんので、8月ごろまでには、こちらとしての仕様をつくるつもりです。

ですので、次回の運営協議会の際には、こちらでつくった案を出して、委員の皆様にもご意見をいただきたいと思っております。

大野学芸員 それから、その他としまして、2階の使用と書いてありますが、使用が徐々に始まっています。実際に改修工事や何かを入れなくても使えるところから使い始めて、実際の職員は学芸員室を使い始めていますけれども、ほかにもワークショップですとか、さまざまところで使い始めるということがあります。

鉄矢会長 ありがとうございます。

教育普及活動のネーミングに関して、神津学芸員から委員の皆さんに、ここのアイデアはありませんでしょうかというのがありましたけれども、いかがでしょうか。

まず、鈴木委員のほうから。

鈴木委員 今、神津学芸員から提案がありました、はけの森クラブですか、シンプルでいいなと思いましたが、行政側とすれば、教育普及活動というような、ちょっとかたいような名称のほうがぴんと来るのかなという気がするんですけれども、皆様、斬新なアイデアがあればお出しいただきたいと思えます。

千村委員 はけの森クラブは、さっきも言われたように、いまいちっていうのが、私もいまいちかなと思います。でも、普及活動というふうにするのもちょっと。今すぐ言われても、何も思い浮かばないんですけども、いろいろな子供たちの、大人もそうだけれども、カルチャーのネーミングってすごくおもしろいのがちまたにあふれているので、そういうのを参考にしながら、何かいいものが思い浮かべればという。今すぐじゃなく、ちょっと考えたりして。子供たちに投票してもらってもいいんじゃないですか。何かそういう機会があれば。

それから、質問でいいですか。館報というのはそれこそ館報で……。

鉄矢会長 すいません。館報に関してはちょっと待ってください。今、教育普及活動のほうを。

千村委員 わかりました。笹岡一展に、また小学校の鑑賞教室が計画されているということですが、これは何年生ですか。

神津学芸員 4年生です。

鉄矢会長 宮村委員、お願いします。

宮村副会長 戻りまして、今のネーミングですけれども、今思いつきですが、はけの森クラブもわかりやすいかなと思ったんですが、ワークショップということで、例えばはけの森わくわくクラブとか、そんな感じですか。今ちょっといいアイデアが浮かびませんが。

以上です。

鉄矢会長 クラブなのかどうかよくわからなくて、囲い込む感じのメンバーを募集するのだとクラブになるような気がするんですが、単に普及活動と、活動というのだと、今まで使っていたアートフル・アクションでも、教育普及活動はけの森アートフル・アクションというようなものでも、今年のAAはというように、アートフル・アクションとか何かいうものもあるのかなと思って。

言いたいのは、クラブというおしまいのネーミングなのか、アクションというものもあるのかなと思っています。次回のアクションはと言わないで、次回の〇〇〇アクションは何かです。次回の何かクラブというのか、そこはちょっとネーミングのところで考えどころかなと思いました。

では、次、館報の作成について、先ほど仕様の話が荒木学芸員から出ましたけれども、館報についての質問とか、聞いてみたいところとかございましたら、千村委員、お願いします。

千村委員 それこそ館報のほうは、タイトルは館報ということなんですか。それとも、はけの森美術館の館報の愛称みたいなのがあっていいのでしょうか。

荒木学芸員 基本的に館報あるいは年報というものは愛称はなくて、大体、例えば小金井市立はけの森美術館年報といった誌名が多いパターンです。雑誌などとは違いますが、報告書に近いものです。

千村委員 わかりました。

鉄矢会長 この報告書は、だれに読んでもらいたい報告書とっていらっしゃるかというのは、子供という、小学校5年生とか6年生ぐらいから読める内容にするのか、それとも、中学生は読めなくていいと。もう少しかたい、美術館仲間と言ったらおかしいですけども、多くの美術館の人たちに向けてやるものなのかというのは、どんなふうにお考えなんですか。

荒木学芸員 それも今後の検討課題だと思います。5周年記念誌といった要素を押し出すのであれば、確かに幅広い、市民の皆さんにも読んでいただけるものという形になりますし、あるいはそうでなくて、美術館活動のあくまで記録、そして、今後の調査研究に役立つものという、学生さんや研究者の方、あるいは同業の方に参考になるものということであれば、またちょっとかたいつくりになってきますけれども、今後相談して案をつくってまいります。

鉄矢会長 美術館としては、まだ意見は固まっていないと思うんですが、学芸員の皆さんの個人的な気持ちというのは、どんな感じのほうに動いてい

るのか。今のご回答だと、何となくどうにでもとれて、運営協議会としてはどちらの方向に流れていくのかなというのわからないので、もし差し支えないのであれば、我々はそう言ったけど、違う方向に行ったのではないかというような揚げ足をとるつもりではないんですけれども、意見として聞いて、ああ、そういう方向に向かうのかなというのはちょっとお聞かせいただけると。

この館報は、先ほど形としては、今まで愛称みたいのもないのかもしれないけれども、愛称をつけるのも可能かもしれないとか、あってもいいんじゃないかとか、手もとにとるのはだれなのかとか、そういうところも、個人的な意見という範囲を出るわけにないと思うので、お話を聞かせていただけると、我々も運営協議会としては、ああ、そういう方向に向かうのかもしれないなと認識ができるかなと思って。もしお考えがありましたらお聞かせいただけるといいなと。

大野学芸員 実は今、荒木のほうから、ここの形になったのも、ほんとうに話し合われていない部分がありまして、方向性も含めて、7月になると思うんですが、現段階の私の意見ということで、それこそまだ中でも、きちっとこれについて話し合う時間はまだ持っていないんですけれども、やはり館報というところでまず思い浮かぶのは、全国の美術館ですとか、美術関係の学芸大学、文化財研究所とか、そういうところの研究所ですとか、研究者の方々、そういうところに配る、美術館の活動の中でも調査研究部門に近いような展示活動ですか、全体の公式の報告書に近い形だとイメージしているんです。ですので、小学生とか広く市民の方が読んでと。

例えば小金井市の図書館にあって、市民の方が手にとるということはできると思うんですけれども、そういうものだと思うんです。ただ、せっかくこういう小さな美術館で、個性が強いところですから、そういうところは何らかの形で館報の中にも入れればいいなと思っています。例えば子供に向けた教育普及活動を頑張っているんだったら、その部分にページを割るとか、何か工夫ができたかなと思っています。

ただ、いろいろな活動の見せ方があると思うんですけれども、「ごくらくごく」みたいな見せ方でやっていく活動もあると思うんですが、1つきっちりとしたかたい形でも館報、年報というのを出すのも1つの大事な事業だと思うので、あまり崩さなくてもいいのではないかなと思っています。私の意見です。

神津学芸員 私の意見はもう少しぜいたくで、人というか、よそに見せるものをつくりたいなと思います。5年に1回しか、ほんとうに今後つukれないのかとか、もし1年に1回つukれるのであれば、今現在、過去に何をやったのが全く見えない美術館だと思うんです。ホームページにも何も載っていないですし、よそに何か広告出したら半額。運営委員の方はもう知っているかもしれないけれども、まだやっぱり知られていない部分もあったり、過去何をやったのかというのが多分大事になってくると思うので、それを年間を通して今後出していけるのであれば、かたい方向というか、すごく大事な部分だと思うので、きちんとした、かちつとしたものもつukりつつ、

広くいろいろな人が手にとって、ここがどんな館なのかがわかるものを欲しいなと思います。せっかくまとめるのであれば、そういった資料のまとめ方もできるんじゃないかなと思います。

大野学芸員 それもあるかもしれないんですが、例えばホームページのほうでの活動の報告とリンクする形で館報、年報をつくるとかがあると思います。

荒木学芸員 先ほど皆様からいただいた、子供でも読めるようにといったものは、ある程度の規模の美術館でしたら、月刊や季刊で出しているニューズレター、そういったものでアピールをしたり紹介をしたりということができるんですが、当館ではなかなか、いろいろな条件でそれはちょっと難しいと思われまので、そういったことは、館報という形ではちょっとそぐわないかもしれませんが、別の形で、多分ホームページですとか、そういった形でアピールできる可能性があるのではないかなと思います。逆に館報のほうは、きちっとかたいもの、研究者、同業者に対しても、私たちはこういう活動をやってきましたときちっと見せられるものをというふうな方針でいければいいのではないかなと考えています。

鈴木委員 学芸員のほうから、今思っていることをお話ししまして、今後まだ検討の余地というのは残されてはいるんですけども、私個人的にも、やはり今まではけの森美術館でやってきたもの、歩みみたいなのをきっちりとした形でまとめて、同業の方にご理解いただけるようなものを1つつくって、その中で、はけの森美術館の持つ個性、特色みたいなのをうまく出していったらいいなというふうには考えています。

ですので、これからまた内部で十分検討はさせていただきますけれども、その中に皆様のご意見もできる限り反映できるようにお聞きしながらつくっていったらいいなというふうには思いますが、やはり多くの方にもはけの森の魅力というものを知っていただきたいという思いは強く持っているところです。

鉄矢会長 ありがとうございます。揚げ足はとらない気持ちでやっていますので。薩摩学芸員顧問にもお願いできますか。

薩摩学芸顧問 私は、顧問という立場ですので、基本的には現場の方々の意見というか、結論を尊重しますけれども、ただ、そうは言いますが、性格はある程度決まっていると思ひまして、1つは、今、美術館の活動記録をきちっと残すということ。それから、ターゲットというか読んでもらう対象は、基本的には大人だと思っています。ただ、この大人というのが、いわゆる同業の美術館、研究者、学芸員、大学関係だけでは多分ない。つまり、当然、小金井の市民の方、あるいは市民の代表である議員の方、そういった方にきちっと活動記録が伝わらなければなりませんので、専門家だけがターゲットではないであろう。ただ、大人であることは間違いはない。

それから先は柔軟な発想で、どこまでの情報を出すかということは少し考えてもいいと思っています。というのは、我々だけが、内部が知っていればいい情報を、ひたすら公開する必要はないわけで、例えばお金に関することだったら、一体どこまで公開するのかとか、例ですけども、私が所属しています芸大の美術館の年報では、入館者数は一切公表しておりま

せん。それは、入館者数でもってその展覧会が評価されては困ると。つまり、開館の日数が多ければ入館者数は増えるわけですし、例えば上野の山で、ほかに大きな展覧会をやっていたら入館者数が増えるわけですし、天候によっても左右されますので、それは評価の対象にしたくないということです。年報で展覧会を紹介しながら入館者数を出していないというところは珍しいと思うんですけども、これは我々の考え方です。

ですから、そういうものは当たり前だと考えることなく、こちら側でどの程度のデータを出すのかということは柔軟な発想で考えていただくというふうに考えています。

以上です。

千村委員 意見です。5年という歴史が過ぎてきたわけですが、これは貴重なことなんですけれども、この間、倉庫などを皆さんに見せていただいたときに、こういう美術館だから、普通にはない工夫というか作業というか、そういうものがものすごくいろいろあるというお話を聞いて、そういう細かいいろいろなことを工夫したり作業したりしたことも記録として残しておいて、この美術館が起動に乗ってくるまでに、どういうそういったものがあつたかということは、後になつたらわからなくなることなので、ちゃんと記録しておいたらいいですよというふうなお話をしたんです。そのようなことも、館報というのか、ニュースレターのほうになるのか、何かコラムでもいいですが、学芸員の方たちが努力された、普通の美術館ではない、こん包するのに場所がなくて、月曜日に来てもらったとか、そういったことも含めて、あるいは棚がどうだったとか、そういういろいろな工夫したり努力したこともメモしたりして知らせるということも、すごく意義があるんじゃないか。将来になって思い出しても、そういうふうにかかわった本人がいなくてできないことですので、記録として残してあつたらいいなとすごく思いましたので、何らかの形で入れていただければと思います。

鉄矢会長 館報に関しては、意見交換という形です。これからぜひ詰めていきたいという熱意を我々は感じたかったので、お聞かせいただきました。ありがとうございました。

(2) 平成23年度事業予定(案)について

鉄矢会長 1(2)の平成23年度事業予定(案)についてをお願いいたします。

大野学芸員 こちらは、今までも委員の方々に、まだ本決まりじゃないものでもいいので、ラフな形でどんどん話していけるような場があればというお話がありましたので、それも意識して来年の案を書いてあります。特に資料もありませんし、口頭の説明になってしまうんですけども、よろしく願いいたします。

まず、猫展ですけども、今、芸大の美術館で朝倉彫塑館の作品の展覧会があるんですが、そちらのほうの猫について、当館の中村研一は猫が大好きですので、そういった関連でできたらなという話が今1つ挙がっています。もう一つは。

神津学芸員 結城座さんという、367年の歴史を持っている人形の劇団なんですけど、

江戸時代から続く唯一の座だということで、今年国記録選択無形民俗文化財に指定されたということで、普及活動したいという先方とのやりとりの中で、ワークショップをこちらからどうですかという声を掛けたんですけども、そうしたら、ワークショップよりも展覧会ができるんじゃないかということ都希望していて、再来週、稽古場のほうに見学に行きます。

北口にあるということをお金井市民が一番知らないというふうにごく嘆いていらして、小金井に拠点を移して30年ぐらいになるそうなんですけれども、ほとんど認知されていないということで。でも、市内小学校等からのワークショップも始めているんですけども、あまり大規模にできないというか、芝居公演が主になるというところで、田中絹代展ではないんですが、少しイベント型の短い展覧会を何か、地域密着型のことができないかなというふうに思っています。

大野学芸員 先に全体像をお話ししますけれども、あと所蔵展が1回ないし2回いいんじゃないかなと思っているんですが、先ほどお話ししました、あと、この項目の最後にもありますけれども、2階や1階の一部を含めた改修が入るかもしれません。そのときに、改修の規模によっては、どれぐらい休館期間が必要かというのがわかりませんが、場合によっては、所蔵作品展の回数が減るということもあり得るかもしれないと思っています。

ただ、閉まっても工事は進めていますし、学芸のほうでする作業はたくさんありますので、例の館報をつくるための編集作業もそうですし、今こちらには入れていませんが、来年の事業で大事なものは、以前も少し話しましたが、作品台帳の整理と報告書の作成というのがあります。そちらのほうも学芸員の荒木が主に担当して進める予定ですが、そのためには、収蔵庫に入って調査が必要ですので、閉めたとしても、することはたくさんあるというふうな状況です。

全体としてはそういう感じで来年も進めていこうと思っています。

薩摩学芸顧問 補足をよろしいですか。来年、改修工事がどうなるかわかりませんが、5年間やってきまして、大体形が見えてきまして、理想的な形は、収蔵作品展が年2回、この中村研一記念はげの森美術館というネーミングから来ることもありますけれども、中村研一とあまり遠くないところにある作家の展覧会。基本的に言えば、日本近代、そういった正統的な展覧会を1本。それから、そういうのとは関係なく、せっかく学芸員がいるわけですから、学芸員の自由な発想で行う、ちょっと実験的なものか、あるいは少しイベント的なものになるのか、そういうことも含めて、それが1本入ってくればいいのかというの、大体今の我々の考え方です。

そういう意味では、昨年のような形で収蔵作品展が2回あって、ガラス絵があって、これが正統的な展覧会、それから、田中絹代があってというのが1つの形かと思っておりますので、来年は改修工事がどうなるかはわかりませんが、一応計画としては、そういったパターンを目指してみたいということで、正統的といえますでしょうか、大きなほうの展覧会としまして、今たまたま、上野の朝倉彫塑館が耐震工事で閉まっております。あそこが歴史的建造物ということで、区の指定文化財ですので、耐震工事なるべ

くもとの状況に戻さなければならないということで3年ほどかかります。その間、閉館しているので、コレクションを貸してくれるということで、朝倉文夫というのは、官展のほうの彫刻家とみなされて、いわゆるリアリズム的な人物像が多いんですが、中村研一と同じで猫が大好きで、あの猫を集めてきまして、中村研一のかいた猫と少し並べて、キャッツ、猫展というのを実現できないかなと、学芸員の我々のほうで考えている状況です。

鉄矢会長 ありがとうございます。

では、今の平成23年度事業予定（案）について、質問やご意見等ありましたらお願いいたします。

千村委員 今、所蔵展のほかに、学芸員の実験的な個性ある企画みたいなものが入るといいんじゃないかなというふうに言われましたが、去年も私は、学芸員の皆さんのアイデアというか、若いアイデア、ああ、こういうものがあるんだという発想に感心したりしたんですが、ぜひそういうユニークなものがあれば入れていただくことは賛成です。

それから、結城座ですけれども、私事になりますが、実は去年の秋に、武蔵野美術大学のサマーセミナーに、結城座の人形の製作者が、人形作りから操りまで教えるという講座がありまして、2期習いに行って、実際人形をつくって、操りを、結城数馬さんという動かし手の人に実際に教わったけれども、ほんとうに動かすのは大変難しいんですが、指人形なんかと違って、子供たちの中に人が入っていくという魅力というのがすごいなと思ったんです。

それで、結城座の人形を使うワークショップみたいなものが時々市報に載っていて、応募しても、応募者が多くて当たったことがないんですけれども、操るというのはすごく難しいんですが、そういったことをワークショップみたいなものでやるのは、興味になるのではないかと思います。

なぜかというと、私のつくった下手な人形を玄関に置いておきますと、とにかく人が触って手を上げたり、歩いたり、いろいろなことをして楽しんで帰っていくんです。糸がいっぱい下がっていて、その糸は片手で操れるように、上に板がついているわけです。そのまま玄関につるしておいたら、子供たちがそれで歩かせたり、いろいろなことをする。せっかく結城座があるんだから、簡単な人形の操りでもいいし。作るのはちょっと、洋服まで作らなくてはならないですから、大変だけれども、とても興味深くおもしろくて、やりたい人にはものすごくいいイベントになると思います。そんなこともあるので、結城座というのは、操るだけでも興味があるし、人形を見せてもらうというのもすごく興味があつていいんじゃないかなと思います。

それからもう1つ私事ですが、小金井市の商工会がお金を出してくれて、小金井夢プランでお金をもらって、招き猫をつくるワークショップをしたんです。そうしたら、たくさんの方が来てくれて、張り子なんです。1回目は粘土でつくって、和紙を張って、今、張り子にする和紙のすごいのが売っていて、1枚張ればしっかり張り子になるような分厚い和紙が専門の店に売っているんですけれども、それを張って、次の日、中の粘土を抜い

て、張り合わせて着色して、みんなかわいいのをつくって、すごい大人気だったんです。だから、そんなような張り子のワークショップ。2回は必要なんですけれども、猫に合わせてワークショップをしたら人気かなというのを、ちょっと。鉄矢先生が審査員で、イベントをやったんです。ちゃんと報告もしましたし。そんなことで、余計なことでしたが。

宮村副会長 私も今のご説明を聞いて、ほんとうにそれぞれアイデアもあって、すごく楽しみだなと思いました。小金井は猫とか犬とか飼っている方がすごく多いので、きっと興味深い展覧会だと思いますし、結城座も、私はあるということは知っていましたが、ほんとうに歴史のある小金井の文化でもあるので、そういうところを紹介してもらえれば、小金井をすごく市民の人もまた見直すというか、そういう結城座があるということもわかったり、すごく視点がまたおもしろいかなと思いましたので、ちょっと盛りだくさんで大変かと思いますが、頑張ってくださいと思います。

鉄矢会長 学芸大も猫が大好きな方がいっぱいいて、小金井にも多分いっぱいいると思って、うまくタイミングを合わせるとか、せっかく今、学芸大のデザインの学生なんかもうまく協力して動いているものがあるとすると、アートフル展なんかもあわせて、このエリア全部で猫でいくというものもあるんだろうなと思って、その中の核が、この一番高級なもので、学芸大の芸術科も、学芸の猫展をやっているというように、ネットワークが広がってきたので、もっとネットワークを広げて遊べるのかなと。遊べると言ったら表現はおかしいんですけども、興味深い活動をさらに深めることができるのではないかなと思いました。多分、猫をキーワードにすると、乗る人がいっぱいそうな気がしました。

それからもう1つは、結城座のほうなんですけれども、今年前期の授業で、学芸大で結城座で授業を受けている学生たちがいるんです。彼らが今人形を扱わせてもらっている。彼らなんかをうまく、そのときのワークショップのスタッフに使うと、スタッフの養成をしなくてもできるのかなと思っています。それから、そのときの授業の様子を映像で撮っているらしいんです。そういう資料もあると聞いています。

それから、美術館の学芸員の皆さんの考え方次第なんだろうと思うんですけども、私自身はデザインとして考えると、これはすごいよねというよりも、すごいときは違うものを横に持ってこれると、このすごさがよく見えるみたいに、海外のどっかの操り人形が一緒に来てくれて、そこのは展覧会をしなくても、公演するなり何なりのときに結城座のほうを見てもらうとか、コラボレーションみたいなものが、国際交流基金みたいなものを使ってうまくやってくると、おもしろいだろうなと思っています。

私は個人的に、学芸大出身の図工の先生で、シモムラさんという方が、プリンプリン物語をつくった友永さんでしたっけ…あの方をゲストティーチャーに呼んだ図工のワークショップという授業があって、紙粘土でつくった操り人形を子供たちがつくるのをずっと見ていたんですけども、子供

私たちは自分がつくった人形が動くと、命が入るような感じですのでごくよかったです。操り人形とか動き、あと、ほんとうに動かす人がうまいと……。というのもおもしろいなどと思って。これはアイデアがどんどん広がりそうで、楽しそうで、どこまで洗練していくのか、うまくするのが期待したく思います。私からはそんな感じですが、鈴木委員は何かありますか。

鈴木委員 23年度の事業ということで、先ほど薩摩先生のほうからもお話がありましたように、理想としては、所蔵展を2回やって、企画展を2回。計4本の展示会を組むことがいいのかなというふうには思っておりますが、先ほど来出ております、2階の使用に係る改修が入るのかどうかというところがございまして、来年度の方角については、まだ定まってこないのかなというところではあると思うんです。

一応、改修の部分につきましては、市の内部で理事者、市長、副市長、教育長の3名に2階のほうを見てもらいました。あと、はげの森美術館を所管する市民部の市民部長にも見てもらっています。あとは我々のほうで、一応こういうような使い勝手にしたいというたたき台を今つくっていて、建築サイドのほうにも見ていただきまして、具体的に費用はどの程度かかるのかというふうなところについても、見積もりをつくっていただいているという状況があります。

今後、来年度の予算づけに向けて、財政当局、企画との調整などもこれから入ってくるようになると思うんですが、極力美術館としての機能、また、多くの方にご利用いただける美術館というものを新たに構築していきたいというふうには考えておりますので、これについては、もう少しお時間をいただいて、委員の皆様にもご理解いただけるような形に持っていければと考えております。

鉄矢会長 そのほかに。

千村委員 館長さんに質問ですが、市長さんとか副市長さん、市民部長さんたちがごらんになっての感想というのはどうでしたか。いいアイデアというか、何か発想の意見が……。

鈴木委員 特には出ていないんですけども、初めて見るという方もいたので、広いなということで印象を述べられていましたが、具体的な活用については、この運営協議会、または現場のほうの意見を参考に、理解を得て。ある程度お金の問題もあるので、今、建築のほうで金額を出してもらっていますが、それによってどうなのかなというところはあると思うんです。費用があまり高くなると、とても出せないよということで言われちゃうかもしれませんし、この程度であればというようなことも考えられますし、こちら辺はちょっと何とも言えないところではあるんですが。

鉄矢会長 ほかに。

(3) その他

鉄矢会長 では、議事内容(3)のその他です。

事務局(中嶋) 皆様のお手元にご配付いたしました、22年度4月分小金井市立はけの森美術館入館者数及び図録等の売払収入についてでございます。

見ていただければおわかりになるかと思うのですが、1、入館者数、2、図録等の売払収入、3、4月分収入額ということで、3つのデータをとってございます。入館者数は、4月分については、有料、無料を合わせますと535人、金額につきましては8万8,600円、図録等の売払収入につきましては、はけの森美術館分、それから、浜松市美術館分、堂本印象美術館分ということで合算いたしますと、3万2,050円ということで、1と2を合算いたしますと、4月分収入額としましては、12万650円という状況でございます。

なお、4月の開館日数につきましては、26日間ということでございますので、26日間でそれぞれの入場者数等を割っていただければ、1日当りの平均が出るかと思えます。

鉄矢会長 ありがとうございます。

前回、前々回というのは、こういった数値がつながって出ていたような気がするんですけども、今回こういう形になったのはどういうわけでしょうか。

事務局(中嶋) こういうふうなデータがA3判用紙になるんです。ちょっとこの関係で集約することが困難でございますので、今回につきましては、このような形にさせていただきました。またそういうように、毎月連続して、また、前年度の対比というようなご要望がありましたら、またそれは検討させていただきますましてということで、ご報告いたしたいと思えます。

鉄矢会長 以前の運営協議会の議事録の中に出ていたと思うんですけども、入館者数はほんとうの目安。先ほど薩摩顧問のほうからもありましたが、多い、悪いというのは評価ではなく、目安として、何の目安なのかかわからないですけれども、見たいから見るという程度で、内容の中でどんなふうに動いているのというのを励みにする人もいるでしょうし、そうじゃない人もいるでしょうしという中でやったはずなので、その辺は学芸員さんのほうから、こういう表でしたよというのを出していただけるとありがたいと思えます。ただ、もうあまり古いのはそのまま残らなくて、表に入る中でいいですね。そんな長い巻物になるようなものではなくて、1年ちょっと前ぐらいからの動きがわかれば良いと思うんですが、いかがでしょうか。

宮村副会長 いいです。

鉄矢会長 その他、何かございますでしょうか。

事務局(山田) 最初に鉄矢会長のほうでご確認いただいていた運営協議会の日程のことですが、前回、年度末の運営協議会に事務局で参加させていただいたときの話では、館長から報告をしていただいた改修計画についての市民参加での意見を求めるということで、運営協議会の中で一定の議論をしていただくための場を持つというふうなお話だったので、そうすると、来年度改修をかけるかすると、秋の予算要求までに何回か設けていただいて、意見を一定程度出していただくような場がないと間に合わないと思うんですが、そこら辺との兼ね合いでどのようにご検討いただけるかという点なんです

が。

鉄矢会長 ありがとうございます。

では、運協も含めて、市民の意見を出す機会をどのように設けるかというところですか。少しディスカッションになるかもしれません。どうすべきかというところを、事務局も委員も関係なく、このところはどうあるべきかという方向が見えれば、今、事務局の山田さんからあった話の方向が出るかと思うので。

今時点での考え。この間、どこの壁抜いてとか、建築に見てもらったじゃないですか。それを1回、現場としてはこのように考えていますということでも話してみたらどうですか。

大野学芸員 前回の委員会でいただいたご意見を参考に、現段階での案をつくって、それで建築のほうに概算を出してもらっているんですけども、その案というのを今……。それともスケジュールの話ですか。

鈴木委員 今はスケジュールの話です。

鉄矢会長 5月の次は7月の段階で、要はそういうものを少し見る。我々は前回の運協のときに意見を投げているつもりです。ただ、それ以上のことが大きく変更があったとか、その意見とはあまりにも乖離したものにしようとしているということは、多分、この建物の形上できないというふうにも私も認識しているんです。そのためにあまり心配をしていないということと、もう一方で、美術館が使うという前提がまだ通っていればいい。美術館じゃない者が使うという話になってくると、それはちょっと待てよというのが運営協議会のほうからは出そうということになりますけれども、そういうことにはなっていないという確認をしてよろしいですか。美術館が2階を全部使って、今使いやすいように……。

大野学芸員 改修案はそういうふうになっています。

鉄矢会長 それに関しては、私は異論はないと思っておりますけれども、各委員、異論がないのかあるのかということをご発言いただければ。

宮村副会長 異論はありません。

鉄矢会長 千村委員は。我々の投げた意見を聞きながら、現場はこの空間の都合に合わせてやっていることですからね。

千村委員 基本的には、美術館が使うということでもいいんですが、微妙な、どういう形というのがいろいろあるから。やっぱり生かし方が別になれば、そういうこともあってもいいかなという気もしますけれども。でも、まだ具体的ではないので、意見はちょっと。

鈴木委員 一定の倉庫ですとか、所蔵の関係というスペース、あと、学芸員さんの研究のスペース、ほかに多目的の講義室とかワークショップを兼ねた部屋というのが1つ考えられるんですが、そこの活用というんですか、例えば美術館で使用していないときに、より多くの市民の方に使っていただくというような観点から、例えば市内の芸術文化団体の人たちにお使いいただくということも検討の余地はあるのかなという気はしていますけれども。

千村委員 今のお話の最後の部分は、それはだめとかという感じでは意見は思っていないので、どういう形になるかわからないけれども、市民が触れるもの

もあっていいかなという気がします。

鉄矢会長 美術館ができる時の方針ではなく、提言という格好だったものには、市民参加という形は書いてあります。ただし、展示の内容とか、そういうところに対しては、市民のものを出すのではなく、学芸員の目の通ったものをしっかり出すということは、まだ多分、ほぼそれが理念に近いような格好で続いていると思うので、多分今の鈴木委員や千村委員の言っているような市民のかかわれることというのは、市民参加という形でのものは残っているし、市民である市民でない関係なく、学芸員のほうの目を通して認めたものが展覧会に出てくるというのは、我々もそこを信頼していくという格好でいっていると思っています。

ですので、考え方としては、今出ているという……。我々は見えていません。黙然とこういうので動いていますというのはありませんけれども、口頭で我々の投げたもので意見を聞いていただいて、大きく乖離なく、形として建築のほうに投げて、今見積もりとか案を具現化しているというふうになっているので、それに関しては心配をしておりません。

ただ、学芸員さん、顧問、館長を含めて、計画案の中でどこかしっくりしないとか、とても空間として座りが悪いとか、何かそのところでアイデアがないだろうとか、そういうことになるのだとすると、我々の知恵が、もし協力できるのであれば、我々はすぐに協力したいとも思っておりますので、お声を掛けてくださいという格好です。

薩摩学芸顧問 2つのことがありまして、1つは、今進んでいる計画図面がありまして、それを施設のほうで検討している。予算の問題とかいろいろあるでしょうから、施設のほうからは、何か案が何回かは出てくると思うんですが、やはりどこかで1回、運営協議会にその図面を出すなりして、検討していただくことを設けないとならないと思うので、それが時期的にいつにしたらいいかということですよ。それが要するに、7月と10月と2月というスケジュールに当てはまるならばそれでいいですし、そうでないならば、前倒しとかというスケジュール調整がこれから出てくるというふうに理解していいかと思えます。

それから、今現在進んでいる案に関して言うならば、鉄矢会長も言われていますように、そんなにとんでもない無理があるようなものは出ておりません。非常に順当なものになっております。

あとは、それがうまくいった場合の運用のことなんですけれども、これは今、委員の方々が言われましたことがほとんど正論だと私も思っています。つまり、この美術館をつくっているときに、展示の部分に関しては、とにかく学芸員の判断基準がある程度あると。つまり、抽選順にどんな人でも展示していいというようなことにはしない。つまり、貸しギャラリーにはしないという方針が立っております。それは多分、ワークショップのようなことをやる部屋に関しても同じで、管理は美術館長の責任で、美術館の学芸員が管理して運営していくでしょうけれども、我々がそこを毎日使えるわけではないわけで、当然あいているときはあるわけです。あいているときに使いたいという市民の方がいたときに、それをばっとシャット

アウトするということではない。ただ、そこを我々の学芸員の判断が入って使ってもらおう。つまり、これなら美術館でやるのに当然である、あるいは美術館でやるのにふさわしいという、そこにある程度、ジャッジと言う言い過ぎですけども、それが入れれば問題はないというふうに思います。それがそうではなくて、単なる申し込み順とか抽選とかということになってしまうと、これはちょっと……。

そういう組織も市にあっていいと思うんです。市民なら市民だけの公平性という点で、早い者順とか抽選とかもあっていいと思うんですが、ここは一定の基準というか、レベルというか品位というか、その判断は入る。それが入りさえすれば、いろいろな利用の仕方はしていいだろうというふうに、私は顧問として考えていますし、それが多分、この美術館をつくってくるときの基本的な考え方であつたらうと考えています。

鉄矢会長 ありがとうございます。

ほかに何かございますでしょうか。

事務局(山田) 今、薩摩顧問のほうからおっしゃっていただいて、結局7月の日程というのは具体化していて、7月に図面が出るので、あとは飛んでしまっ、ずっと先に行ってしまうのだとすると、もう予算要求というところで固まってしまっ、検討の余地がなくなってしまうのかなというあたりがちょっと懸念されたので、申し上げたんですが。

鉄矢会長 7月に出てきた段階のものがまずかった場合ということですか。

事務局(山田) ええ。こうしろ、ああしろみたいなことがあって、そこで一応ご了解をいただいて予算組みをしていくみたいな形で、よくやればそれでいいと……。

鉄矢会長 我々は運営協議会であって、美術館の設計のクライアントではないと思っています。ですので、使い勝手等は、住宅に住んでいるオーナーが言うように、オーナーのいろいろなものを聞くように、使い勝手とか現場を知っている方の意見というのが尊重されるべきだと私は思っています。

ただ、その中で先ほど言ったように、座りが悪いとか、しっくりこないとかいうところがあったときに、我々の知恵も協力したいというのがあります。その中で、7月の段階で問題なければ、問題なく動くと思いますし、一度相談というお話があれば、その前に運営協議会という形ではないのかもしれませんが。違う形でもいいです。臨機応変な形で相談なりという格好でいいのではないかと思いますけれども、そんな感じではいかがでしょうか。

薩摩学芸顧問 むしろそのスケジュールは、事務局のほうからある程度出せませんか。これやってもらったほうがいいのか。そのほうがいいのかと思います。事務局と運営等相談して、そのまま進めていいのか、一度は運営協議会にかけたほうがいいのか、いや、これはもうちょっとやらなきゃならないのかということ、スケジュールリングを含めたほうがかえっていいと思いますけれども。

鉄矢会長 事前協議みたいな話で、一度皆さんで集まるのか、その後こここの場に正式に出すという格好で、そこでみんなが、これは一度検討もちゃんとし

ているしという認識を持てればいいのかなどという段取りだと思っています。

薩摩学芸顧問 多分そんな方向でいいかと思います。運営協議会をまた増やすというと、また予算の問題とかいろいろ出ますので、委員の方は、お金がなくても、事前協議1回ぐらいお集まりということでしたら、多分協力していただけだと思いますので、そういう形で進めていけば、むしろこちらのほうでスケジュールを決めていいと思います。

鈴木委員 今、会長と顧問のほうからお話がありましたように、予算要求するに当たって、内部だけで考えて出したものなのか、運営協議会のいろいろな意見をいただいた中で、そういった過程を経た中で予算要求を上げているんだよというふうに我々としても言いたいわけです。前回の運営協議会で、一定方向性についてご意見をいただいて、それに基づいた形で今、概算のほうをとっているところですので、次回の運営協議会で図面等をお示した中で、運営協議会としての結論みたいなもの、この方向でみたいなものが出ればいいのかなどというふうには思います。

鉄矢会長 了解です。

事務局(中嶋) 前回の会議録は3月30日、委員の皆様にご送付いたしました。その修正する箇所がございましたら、本日終わりました段階でお預かりしたいと思います。

あと、鉄矢会長に、会議録のほうは、である体ではなくて、です、ます体でよろしいでしょうか。

鉄矢会長 である体ではなく、です、ます体になって、市民の皆さんが読みやすい形でまとめることに対して、異議のある方はいらっしゃいますでしょうか。

(「なし」の声あり)

鉄矢会長 異議ないようですので、そのように事務局のほう、お願いいたします。

では、平成22年度第1回小金井市立はけの森美術館運営協議会を閉会いたしたいと思います。ありがとうございました。

— 了 —